

## 第2回徳島市食育推進計画策定市民会議 議事概要

日 時：令和3年1月27日（水曜） 14時00分～15時30分

場 所：徳島市中央公民館 7階 大ホール

議 題：(1) 市民アンケート調査結果の報告について  
(2) 第3期徳島市食育推進計画（素案）について

出席者：委員計11人

井河委員、宇野委員、高橋委員、新見委員、能川委員、板東委員

坂東（賢）委員、坂東（光）委員、坂東（智）委員、松村委員、山口委員

事務局計5人

保健福祉政策課

傍聴0人

### 【会議の内容】

#### 1 開会

#### 2 議題

##### (1) 市民アンケート調査結果の報告について

（事務局）

資料1「食育に関する徳島市民アンケート調査結果（案）」に基づき説明。

（会長）

事前に送っていただいた資料を見て、BMIの区分が変わっていることや、クロス集計について意見を出し、修正版をもらった。委員の皆さまから意見はありますか。

（A委員）

自分の健康や家族の健康について悩みや不安を抱え、今後栄養バランスの取れた食事の実践をしたいと思っている市民がたくさんいることが、このアンケート結果で分かったので、資料3の15ページの「食事バランスガイド」や「食生活指針」をインターネットや広報誌でたくさんの人に周知し、理論と実践を結びつけていけたらよいのではないかと。私自身も努力していきたい。「食事バランスガイド」が意外と知られていないということを知ったので、分かりやすい形で作られているので、色々な所で目にする機会が増えたらいいのではないかと。

（B委員）

メタボリックシンドロームの方が増えており、肥満度も40代から多くなっている印象を受けている。コロナ禍で運動量も減っている。自宅の食事でも、適正な栄養管理ができていない人や野菜摂取について意識はしているけども、実践が難しいという人が多くいる状態があるので、若い人がどうやったら上手に食べられるかという事を、栄養士の方々に教えて頂く機会がたくさん増えればいい。企業では、中小の企業を対象に、地域産業保健センターで、健康診断などの結果相談をしているので、そこに資料配付が出来たらいいのではないかと。

（会長）

「自分がメタボリックシンドロームに該当するか」の結果では、中高年以上の数値が増えており、自分でも自覚しているのだなということが分かる。また、9ページを見ると、小・中学

生位までの痩せも増えている。今、BMIなどの体格指数が二極化していて、高校生から適正数値の人は多いが、以前のアンケート結果では、ここまで大きな数字は見なかった気がする。

16、17ページの「朝ごはんの摂取と主食・主菜・副菜を揃えた食事」については、「食べていない」や「そろえていない」といった否定的な意見のほうに着目してまとめてもらった。

「朝ごはんの摂取と朝ごはんの主食・主菜・副菜を揃えた食事」、「朝ごはんの摂取と昼ごはんの主食・主菜・副菜」、「朝ごはんの摂取と夕ごはん」これで問題ないか。

(事務局)

問題ない。

(副会長)

徳島県の県民栄養調査を目にする機会はある。県では結果を一つの冊子にして広報していて、これは徳島市民のアンケートなので、徳島市民の食生活の状況がどうであるのかというのを、市もそういうふうに来たらいい。県ではこうだけど、徳島市ではこんな所に問題点があるという事が出せたらいいのかなと思う。BMIの肥満判定では、意外に年代の高い人が丁度良いという人が少なく二極化している。色々な場面や色々な世代に、栄養指導を広げていく必要があると感じた。

(会長)

食生活がすぐ目に見えてくるのは、やはり体重になるかと思う。自分が答えている中ではあるけれども、結果を見るとそれぞれの現状を浮き彫りにしているのではないか。

## (2) 第3期徳島市食育推進計画（素案）について

(事務局)

資料2「第3期徳島市食育推進計画の方向性（案）」、資料3「第3期徳島市食育推進計画（素案）」、資料4「第3期徳島市食育推進計画（素案）新旧対照表」、参考資料2「第4次食育推進基本計画（国）骨子案」、当日配布資料「（国）第3次計画の進捗状況と（市）第1期～3期の進捗状況」に基づき説明。

(C委員)

食育基本法の中で、食は知育・徳育・体育の基礎となる大事なものであると書かれている。全くそのとおりで、学力の面からも、朝食を食べている子と食べていない子の差は統計的にも出ている。小学校では、「学年のおたより」や「校長室だより」等で、定期的に早寝早起き等について指導しており、特に朝ごはんについては、子供たちに分かるように、それぞれ担任または私の方でも記載している。2・4・6年生については、食育の学習を重点的にする学年ということで、栄養教諭と連携して授業を行っている。市の給食管理室や学校教育課の食育の担当の方を中心に、市も色々献立を考えてくださり、最近ではハモの料理が給食で出てきたりするので、これまでに出来なかった献立で、給食を楽しみにしている児童が増えてきていると感じている。

(会長)

学校現場ではかなり食育が進んでいるが、アンケートに伴う数値データについては、国と比べたものではかなり徳島市が低い値もある。

(D委員)

国の第4次の計画を見ると、SDGsに関して国が取り組んでいく方向性が見受けられる。保育園で食育に携わっているが、徳島でSDGsを知らない方がまだまだ沢山いる印象があ

る。それをまず認知してもらうような枠組みや情報発信が一つだと思う。今回、この第3期計画にそういうものを盛り込み、国との足並みを揃えた計画にするには、SDGsが一つキーワードになると思うので、何かいい方法がないのかなど。

(E委員)

私もSDGsについては知らなかった。今回の資料で目にして、初めて何となく分かったので、先ほど他の委員が仰ったように、その言葉をまず、広げていく必要があると思った。ニュースでもSDGsという言葉聞いたことが無く、やはり皆も知らないと思うので、皆に知らせた方がいい。

(F委員)

2019年12月1日に、SDGsをテーマとして徳島県下の婦人問題調査研究発表を行い、結果を小冊子にもまとめた。20代から70代まで幅広く2000人を対象としており、SDGsの17の目標を把握して買い物にはこのマークを確認し、マークがついている商品を買おうと推奨している。

一昨年はSDGsの小冊子のデザインを県立名西高校の学生さんにしていただき、昨年はエシカルノートを作成した。この中には食育から消費のいろんな事があり、全国的にも好評である。

持続可能な未来に向けて今バトンタッチする時である。市・県の婦人団体がこのエシカルとSDGsをテーマとして、奮闘しており、SDGsのマークの手作りのバッジも作成している。

(会長)

SDGsやエシカル消費、次々新しい言葉が出てきて、我々も勉強しないとイケない。持続可能な17の目標があり、それぞれのマークがあるという事で、色々な事がそれぞれの目標に該当するかという事がある。新たな言葉で、まだまだ市民の間に広がっていない部分があり、そういう事も考えながらこの計画を進めて行けたらと思う。

(A委員)

資料3の22ページ「ウ 昼食のあり方の研究」において、「外部委託等を活用した昼食のあり方について研究を進めます。」と記載があるが、幼稚園の昼食をお弁当から外部委託を活用した昼食に変更することについて、研究しているのか。

(事務局)

以前から、給食のあり方の研究を進めてきたが、現在は外部搬入によるお弁当の実施を検討しているところである。

(A委員)

外部搬入とは、どういう事か。

(事務局)

食事を作っている企業から作っていただき昼食を、幼稚園に搬入するという事を検討している。

(A委員)

どうしてそのような検討をしているのか。母親がお弁当作るのが忙しいといった理由があるのか。

(事務局)

そのようなご意見もある。例えば、始めは月1回でもお母様の手間をかけない日を作れば、多少なりとも楽になっていくのではないかということから、検討している事だと思っている。

(会長)

幼稚園は今も殆どお弁当だが、お弁当だと各家庭によって差がある。それを皆同じ様にバランスの良い食事というところの観点で見えていくと、保育所、小学校は給食があり、全員一緒に給食が望まれるのかなと思う。なかなか難しい問題である。

(G委員)

認定こども園では、子ども達が一日の大半を過ごしているので、食を含め大きな責任を担っていると考えている。

議題1の徳島市民アンケートの中で0～5才児が、「みんなといっしょに食べられるから」との理由で給食時間が楽しい、との結果が出ており嬉しく思う。ここに給食の意味と重要性があると感じる。

コロナ禍の前は、3才児から5才児の異なる年齢の子ども達が混ざり合っ、ランチルームに一同に集まり、テーブルに座って、ワイワイ・ガヤガヤと楽しく食事をしていた。子ども達も、朝来たら早速「今日の給食は何」「今日のおやつは何」という質問を先生にしてくる。それくらい、給食やおやつは、子ども達の生活の中で楽しみなものである。

今では、ランチルームで時間ごとに年齢を分けて、子ども達が少人数で食べている。それまではマスクをしてきて、食べる時だけマスクを外し、出来るだけお喋りをしないで食べて、食後にはマスクをつけて部屋に戻っている。子ども達もコロナの流行により、楽しみにしていた行事が縮小になったり取り止めになったりと、口には出さないが、見ていて寂しく感じていると思う。

次期計画の基本目標の中で、「新しい生活様式に対応しながら、楽しく食べる習慣を身につけましょう」とあるが、新たにどのような課題が出てくるのかが気になる。

こんな時だからこそ、しっかり子ども達に食べてもらって、免疫力の高い・強い身体を作って、明るく笑って規則正しい・楽しい生活をして欲しいと思っている。園の畑での栽培活動や、とれたて野菜を給食室に持っていき、その日の給食に使ったり、クッキングで自ら調理していただくなどして、食べるのが楽しくなる意欲を高めていきたいと思っている。

できない事ばかり探すのではなく、このコロナ禍の中で、私達もできる方法をちょっとでも考え、子ども達の「今」を保証していける、食育や教育を考えていきたいと思っている。

(会長)

食育の目的である「楽しく食べる」という事が、コロナで削がれている状況があるが、子ども達も、本当はもっと色々楽しくやりたいんだなという所が見えてくるのだろう。それぞれの施設では、工夫されて色々やられている。一つの言葉に置き換えてしまうと、「新しい生活様式」という言葉になるかもしれないが、その中にはもの凄く深い意味があると思う。

(H委員)

幼稚園でも、健康な心と身体を育てる為に食育を行っている。まず、子ども達に食べる喜びや楽しさを味わって欲しいというのが一番にある。そのためには、外でいっぱい身体を動かして遊んで、お腹を空かせて「お腹が空いた、ご飯食べたいな。」という気持ちになるようにしたり、大好きな友達が出来たら「あの子と一緒に食べたいな」という気持ちを大事にしたりと、食べる事に対する喜びとか楽しさを味わって欲しいと思っている。

それから、栽培活動などを通して、食べ物などへの興味や関心を持って「これが食べたいな」「あれが食べたいな」という気持ちや自ら進んで食べようという気持ちを育てていきたいと考え、取り組んでいるところである。その中で、色々な人に対する感謝の気持ちを持つよう言

葉かけをしたり、マナーが身に付く様にとという事を考えている。

先ほど感染症対策の話があったが、幼稚園でも、とても楽しみにしているお弁当の時間を密にならない様に、人数の多いクラスであれば二部屋使ったり、座っている間にアクリル板を立てたり、もちろん消毒をしながら、あまりお喋りをしないで食べている状態である。子ども達にも、折に触れて幼稚園から色々コロナの事や身体を大事にとといった健康の事について、話をしているので大分心得てきている。子ども達から「大好きだから離れるんだよね」と言いながら、距離を取ってお友達と食べている状態である。

先程、外部搬入のお弁当の事の話があったが、検討をしているという段階で、具体的な事はまだ何も決まっていない。行うに当たっては、アレルギーの事や注文や集金の事など、色々な課題があり、実施方法も決まっておらず、検討に向けてという段階である。

(会長)

保育所・こども園、幼稚園は、食育が始まる年齢で、凄く重要な時期である。

(I 委員)

J A 徳島市の人間として、農業部門の事で何かご質問等があれば、お答えしたいと思う。

(C 委員)

施策の展開「5 環境との調和による食育の推進」の中で、食品ロス削減の啓発が出ている。コンビニのおにぎりや沢山の恵方巻きの巻き寿司が廃棄される様子がニュースで流れており、率直に感想を言うと、もったいないなと思った。素案の中でも、食品ロス削減に関する法律が施行され、「食品ロス削減全国大会」が徳島県と共催で開催されたとあるが、どのような方が参加しているのか。

(F 委員)

学生や民間事業者が参加しており、食品ロスの削減に向けたフードバンクの活用について等の発表などがあった。

(C 委員)

食品ロスについての啓発については、積極的に行っていけたらいいと思う。

(B 委員)

「30・10(さんまる いちまる)運動」について、継続して皆にしてもらえる運動になるとありがたい。

気になったのは、アンケートの中でも中食を利用している人が、中年以降の年代だけではなく、子ども達の年代でも結構な割合で使ってるのではないかということだ。実際に、野菜を多く採る方法というのは中々難しく、テイクアウトでも非常に少ない。だから、中食の利用の仕方を教えてもらえるような冊子を用いて、市民に啓発していけたらありがたい。いかに上手に食品を食べるかが重要だと分かっているけどできないというのが実態だと思う。

(会長)

委員の意見を聞いていると、色々な啓発がうまく一般市民の中に浸透していないというのが見えてくる。

(E 委員)

「主食・主菜・副菜を3つ揃えた食事」について、自身も副菜を摂れていない部分があるが、本当に揃えないといけないのか。

(会長)

「バランス良く食べる」という一つの考え方として、主食・主菜・副菜をとわれている。「一汁一菜」と言われることもある。野菜・肉・魚を色々バランス良く食べるための工夫の一番分かりやすい伝え方として主食・主菜・副菜となっている。若い人たちは、一皿に全て盛り合わせて、ワンプレートの食事を提供するお店に行っているが、そうすると主食・主菜・副菜が全て一緒になってしまう。従来の和食の主食・主菜・副菜とは違う考え方もあるので、バランス良く食べるひとつの考え方と見てもらえるといい。主菜の中にいっぱい野菜とかが入れられれば、それはそれで良いと思う。

(D委員)

バランスの良い食事は凄く大切だと思う。中高生のスポーツをしている子ども達に携わっている中で、一食分の写真を見せてもらった時には、バランスがいいと思ったりするが、2・3日分の写真を見ると、食品群別のきのこ類や種実類など、全然摂れてない食材がある。そういったアプローチも、今後個別指導にはなるかもしれないが、情報として出して行ければ面白いのではないかな。

啓発の部分で、基本理念の「食を通じて元気な「からだ」と豊かな「こころ」を育みます」について、大切な事ではあるが、さらに若い世代を取り込んで食育を徳島市民全体で盛り上げていく必要があると感じる中で、サブタイトルやテーマを掲げて、この5年間はサブタイトルやテーマに沿った方向性でいくというのがあっていいのではないかな。例えば、「SDGsの目標達成に向けて皆で取り組もう」とか「全ての世代でやっていこう」のようなキャッチーな、ロズさみたくなる様なテーマを提示出来ると、SDGsの啓発にもなる。

食育は小中高からずっと生涯通してやっていくので、色々な取組において17項目のどの目標を中心にやっていくのか、達成するのかをロゴを活用して表示すれば、皆が意識しやすいと思う。

(会長)

具体的で分かりやすい意見をいただけたと思う。

(副会長)

基本理念は分かりやすくいいと思うが、肉付けがあってもいいと思う。サブタイトルが付いてもいいし、徳島は食材が豊富な町なので、そのあたりもニュアンスとして入ると、特色が出るのではないかな。

栄養のバランスの話になるが、やはりどの世代においても中食は欠かせなくなっており、最近では中食を抜きにして栄養指導をすると成り立たない様な所も見受けられる。中食を利用しながら、品目を多くしたり、食品を網羅したりして、どのようにうまくバランスを摂っていくかというところを、食育を通して色々な世代に浸透できたらいいかなと思う。

もうひとつ、「この日はこうしよう」というようなキャッチフレーズがあれば、浸透しやすいと思う。

(会長)

国の第4次計画にはSDGsという文言が出てくる。市の次期第3期計画では本文の中には出てくるが、会議資料やパンフレットが公開される際に「SDGs」や「持続可能な」という言葉を今回新しく入れた事が分かるようにすべきではないかな。

もう一つ、国の骨子案で出た方向性として、「デジタル化」がある。本文の中でデジタル化という言葉が、食育の方法という中で本文に出てきていないので、国が出してきた目新しい言葉については、徳島市の分にも入れるべきと思う。

具体的には、基本目標「(9) 食を通して環境について考えましょう。」の部分で、「食を通して持続可能な環境を考えましょう」といった形で「持続可能な」という言葉を入れる事も可能ではないか。デジタル化しているところでは、それぞれの食育の推進の方法の中に、「ICTを活用した」というような文言があってもいいのではないかなと思う。

基本目標「(8) 食品の情報を見分ける知識を身に付けましょう」について、食品だけの情報ではないので「食に関する情報を」と修正してもいいのかなと思う。また、今回、コロナ禍の新しい生活様式の中で、色々な事が変わりつつある中で、それに向かってやっていくという内容を少し盛り込んでもらえたらと思う。

本文の中の修正については、特に委員からの意見は出なかったが、どのような事を啓発すべきなのかという内容がアンケートの中から出てきているので、しっかりと盛り込んでもらえたらと思う。

(A委員)

資料3の7ページ「(6) 徳島県食材を使った豊かな食生活を実践しましょう」について、この6行目「徳島産の食材を家庭の食卓や給食などに積極的に導入し」とあるが、ここを「徳島の農林水産物を」という文言に改めた方が良くと思う。徳島は豊かな土地に恵まれた農作物の生産地であるとともに、豊かな水産資源も持っている中で、私たち徳島市民はそのような環境があるにも関わらず、魚を食べるという事がおざなりにされているのではないかなと考えている。特に、青魚は必須アミノ酸などバランス良い。幼少の頃から老年まで、近くで採れるものを食べる事が大事だと思うので、提案したい。

(会長)

単なる食材としてではなく、もう少し具体的にという事ですね。

(副会長)

先程の基本目標「(8) 食品の情報を～」については、本文では賞味期限、消費期限、産地表示、品質表示の内容について書かれているので、意図する所が少し違うのかなと。

(会長)

本文に「誤った食に関する情報を見分ける知識を身につけましょう」とあるので、タイトルを大きな内容を含む形の文章にした方がいいのかなと思ひ、提案した。

(事務局)

各委員様の皆さまからの非常にたくさんのご意見ありがとうございます。

SDGsについては、当初の国の資料ではSDGsという言葉が前面に出てきていたが、現在の骨子案では、SDGsという言葉がなかなか浸透していない中、おそらく言い換えて表現を後退させていることから、持続可能性という表現を徳島市でも採用した。先程のご意見の中で、今後の浸透を考えると、SDGsをちゃんと書くという考え方がいいのではないかなという意見があったため、啓発についても検討していきたい。

SDGs以外にも修正すべき箇所としてご意見をいただいているので、今後、事務局で内容を取りまとめた結果と修正案を持って、会長に相談したい。修正が少ない場合や再度ご討議までは必要にならない場合もあるので、一度修正を主管課と検討し、会長に市民会議を開催するか、書面開催とするかを相談したい。

次回市民会議は、開催するのであれば2月19日を候補日としている。後日、正式に通知したい。

3 その他

4 閉会